

サワラの資源生態

海洋資源課
主任研究員 井野 慎吾

1 背景・ねらい

1998年以後、日本海でサワラの漁獲量が急増し、近年は日本海沿岸における重要な漁業資源となっているが、日本海のサワラについては、生態がよくわかっていない。このため、日本海のサワラの生態および来遊量の変動要因を明らかにする目的で、平成21年度から日本海区水産研究所と本県を含む10府県の研究機関が共同で調査を行ってきた。その結果の概要を紹介する。

2 成果の概要

- (1) 日本海と同時期に中国と韓国においても漁獲量が大きく増大していた。東シナ海および黄海においてサワラの資源量が増大し、高いレベルで推移しているものとみられた。
- (2) 日本海沿岸各地において、サワラの稚仔魚が定置網等で漁獲されているか否かを調べたほか、対馬海峡～能登半島西岸沖において、採集ネットや表中層トロール網を用い、稚仔魚の採集調査を行った結果、稚仔魚および体長30センチ未満の幼魚はみられなかった。
- (3) 各地で漁獲されたサワラの体長測定調査等の結果から、日本海のサワラは、0歳の秋期（体長30センチ級）に東シナ海から対馬海峡を経て日本海へ来遊し、本州沿岸の各地に拡散するものとみられた。
- (4) 標識放流調査および成熟状況調査等の結果から、沿岸各地に拡散した後、2歳の春期（体長65～75cm、体重2kg前後）まで大きな移動を行わず、各地先で成長するものとみられた。また、2歳魚は春期に産卵活動のため、日本海から東シナ海および黄海へ移動するものとみられた。
- (5) 富山湾では、春期に2歳魚が漁獲されているが、これは、能登半島以北の海域で成長したサワラが東シナ海および黄海の産卵場へ向けて南下回遊する際、定置網で漁獲されているものとみられた。能登半島以北における0歳魚の分布状況を基に2歳魚の漁獲量レベルを予測できる可能性がある。

3 成果の活用面・留意点

得られた成果は今後、資源状況の評価、来遊量の予測や資源管理等、資源研究の基礎資料として活用される。

4 問い合わせ先

富山県農林水産総合技術センター水産研究所 海洋資源課
担当：主任研究員 井野慎吾
TEL 076-475-0036

(参考) 具体的データ

日本海では 1998 年以後、サワラの漁獲量が増加し、近年は 7 千～1 万トンが漁獲されている。

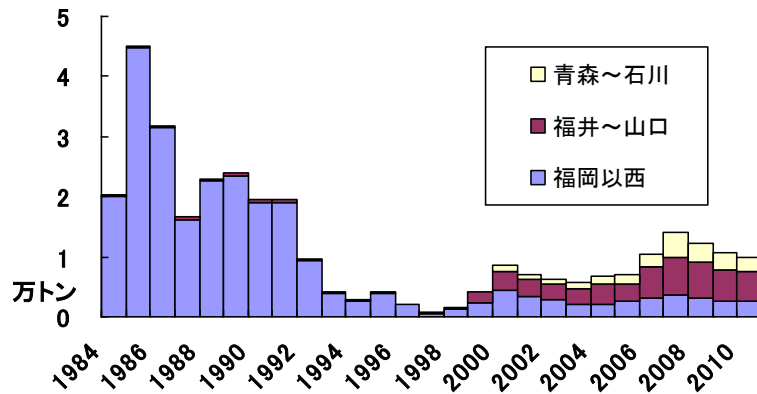


図1 サワラの海域別漁獲量 (日本海・東シナ海)

中国と韓国においても、同時期に漁獲量が増大し、近年も高水準で推移しているとみられる。

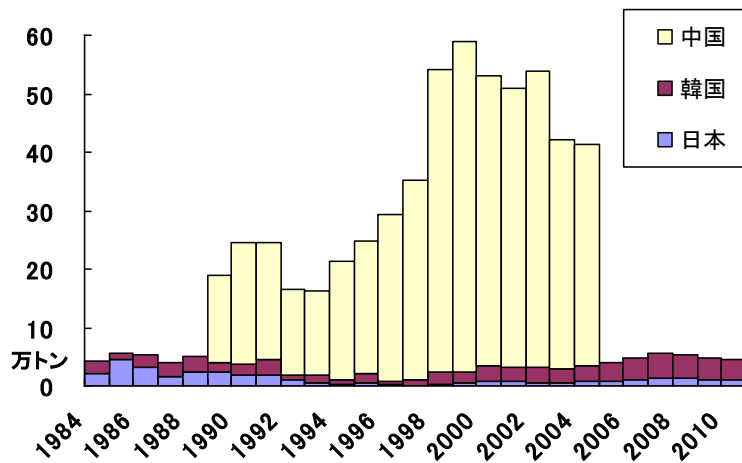


図2 中国、韓国および日本のサワラ漁獲量 (中国は1988年以前と2005年以降の漁獲量データを公表していない)